

# 絆 求 め て

2月 22日発行

文責 私学振興専門員 久保田学



## 創造的な学びについて

令和3年11月27日に行われた河邊貴子先生の秋季公開講座での園の先生方からの質問・意見の中に、「自園は、一斉保育活動が主で進められています。子どもの主体性を考え、今どんな保育展開をしていくか模索しているところです。今日のお話を聞きし、どんな保育形態でもふりかえりと、こどものあそびを理解し、おもしろいと感じすすめていくことの大切さを改めて感じました。」との話がありました。このことに対し、河邊先生からは、以下のようなコメントがありました。

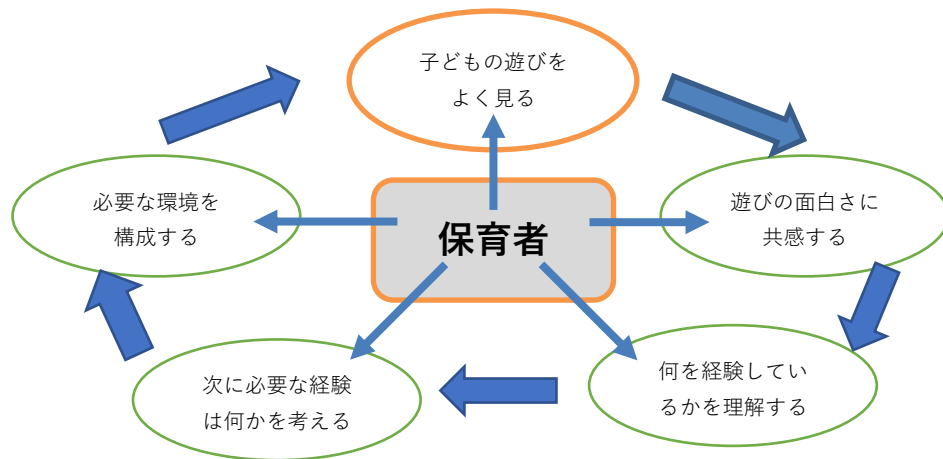
- \*幼稚園のカリキュラム＝経験カリキュラム。
- \*1時間目から時間割で動いていく（活動で埋められている）のは、カリキュラムではなく、プログラムである。
- \*そのプログラムの中で経験したことが、好きな遊びの中で継続していく。言い替えれば遊びの時間に引っ張りこめるように環境の工夫が必要（環境の構成・再構成）
- \*そのプログラムが本当に必要なのかを見極め、数の精選をはかる。それは、言われたことだけしかできない子から、自分でやることを発想できる子に変えていくことにつながる。
- \*園庭の環境を変えるだけでも子どもの発想の世界を広げることができる。

河邊先生は、公開講座の中で、子どもの創造的な学びのスパイラル（クリエイティブ・ラーニング・スパイラル）について話され、ミッチェル・レズニックの「創造的思考力を育む4つの原則」について、紹介されました。ミッチェル・レズニックの著書、「Lifelong Kindergarten」の第1章には以下のような文章があります。



- \*幼稚園スタイルの学びこそが、急速に変化する今日の社会で活躍していくために必要な創造力を、あらゆる年齢の人々が育むために必要なものであると確信している。
- \*厄介な傾向として、今日の多くの幼稚園では、子供たちは算数ドリルの中身を埋めたり、フォニックスフラッシュカード（文字と発音を学習するカード）で練習したりしています。
- \*早期識字指導に重点を置き、遊び心のある探究のための時間が短縮されています。…
- \*新しいアイデアや洞察は、単なる閃きのように見えるかもしれませんが、それらは通常何回も繰り返される、発想、創作、遊び、共有、そして振り返りの果てに現れるものなのです。そうです、何度も繰り返されるクリエイティブ・ラーニング・スパイラルの果てにもたらされるのです。

河邊先生は、「発想、創作、遊び、共有、そして振り返り」のサイクル（クリエイティブ・ラーニング・スパイラル）が＝「遊び」と幼稚園では言っているとの話がありました。そして、遊びの質を高める保育のための保育者の役割について、子どもの思いと経験をくみ取り、環境を通してサポートする存在であることが必要であると話されました。次の図は、その時の保育者の役割を説明した図を参考にして作成したものです。



また、そのような保育者の役割を果たすためには、保育者としての今の自分を見直すことが大切と話されました。見直す視点は、①子どもの理解はどうか②子どもの理解に立って環境構成しているか③短期、中期、長期の保育デザイン

ができているか。以上3点で、このことは言い換えると、「子ども理解に立った支援ができる保育者であることが求められている。」ということです。

ミッチェル・レズニックは、「創造的思考力を育む4つの原則」について以下のように説明しています。

私たちは、創造性を育てる最善の方法は、情熱に基づくプロジェクトに、仲間と共に遊び心に満たされながら取り組むことを支援することだと考えています。(本文 p429 行～10 行 引用)

つまり、プロジェクト(=テーマ)、情熱(=意欲)、仲間、遊びが4つの原則であり、それに基づいた子どもの活動を支援する存在が、保育者ということになります。

幼保小接続の重要性が言われる中、接続の中身として、小学校と同じような日課による保育、小学校の学習を先取りするような学習内容が多くみられます。この取り組みは小1プロブレムへの対応として一定の効果も期待できます。またそのような保育の工夫は、その園の特徴として捉えられ利用者からも高く評価されているのだと思います。しかし、最初に紹介した園の先生が持たれている「園児にとっての主体的な学びの場」「保育者の主体的な学びの場の提供」という点で考えた時、今の保育の状況に課題を感じている先生もいるのではないのでしょうか。

河邊先生は、研修の冒頭で、遊びの定義について話されました。「遊びとは、子どもの主体的活動であり、子どもが環境にかかわって生み出す発意としての活動です」と。また、「一斉に行われる活動がダメではなく、遊びの要素が活動に入っているかが大切」とも話されています。遊びの要素については、自発性(自分から)、自己完結性(納得するまで何度でも繰り返す)、自己報酬性(自分で自分をほめる)の3つを挙げています。私たち保育者は、今行っている保育について、遊びの要素に照らし振り返ってみることが大切と、河邊先生のお話をお聞きして感じました。

令和3年度も残すところ1カ月余りです。新型コロナウイルス感染拡大により、園での活動にも様々な工夫がなされた1年と思います。ここにきて新型コロナウイルスが原因での休園などの対応を余儀なくされた園もあったことと思います。令和2年2月28日国は感染対策として、「全国一斉臨時休業」の措置をとりました。これにより長期間学校が休校となりました。そしてその後も断続的に同様の措置がとられました。その時学校現場に求められたのは、「臨時休業措置により学校での学習ができなくても、子どもたちが家庭で自学自習できる力をつけること」でした。私が勤務していた小学校でも、自学自習の手引きの作成、自学自習ノートの活用、自学自習時間の確保など、様々な取り組みを行いました。あれから2年、小中学校での学び方はどう変化しているのでしょうか。

あのとき子どもたちに求められた力こそ創造的な学びであり、創造的に学ぶ力であったと思うのです。園での学びに求められているものは、正にこれからの社会を生き抜く力をつけるための、基礎となるということ、私たちは肝に命じなくてはならないと思うのです。(専門員)